

2021年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
21108	科学概論 Introduction to Science	横田 正		基礎	2	選択	1前期
科目の概要							
<p>栄養士として食生活の改善を通して健康の保持増進に向けた提案をするためには、食品を物質として捉えることが重要であり、化学の基礎的な知識が必要となる。この科目は、栄養士免許取得に必要な科目である食品学、栄養学、生化学などを理解するために必要な化学の知識について学ぶ。基本的には高校の化学の復習となるため、既に習得している学生には物足りないと感じることがあるかもしれない。また、就職試験の常識問題レベルの溶液の濃度、比率などの基礎的な計算問題も行う。</p>							
学修内容				到達目標			
① 化学、特に有機化学の基礎を学ぶ。 ② 実験に必要な物質質量（モル）について学ぶ。 ③ 食塩水の濃度、比率の計算問題を解く。				① 基本的な栄養素の化学構造を記すことができる。 ② 中和滴定の計算ができる。 ③ 食塩水の濃度、比率の計算問題が解けるようになる。			
学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例					
前に踏み出す力	主体性	講義中に教員からの問いかけに積極的に発言する 基礎問題をクラスメイトに積極的に教授する。					
	働きかけ力						
	実行力	各基礎問題や本試験など、最後までやりとげ1点でも多くとろうとする。					
考え抜く力	課題発見力	授業内容について、理解できていない箇所を分析し現時点での課題を見極めることができる。					
	計画力						
	創造力	講義で学んだ生命現象に関する科学的な用語や現象を、普段の生活や自分自身の身体のこととして捉えることができる。また、関連する他科目に応用できる。					
チームで働く力	発信力	自分の意見や考えをわかりやすく説明できる。					
	傾聴力	講義内容をしっかり聴き、疑問に思ったことは意見することができる。					
	柔軟性						
	状況把握力						
	規律性	遅刻、無断欠席をせず、授業が円滑に進行するようにルールを守ることができる。					
	ストレスコントロール力						
テキスト及び参考文献							
「基礎トレーニングドリル」小野廣紀ら著 化学同人 1,800円（税抜き）							
他科目との関連、資格との関連							
他科目との関連：「食品学」「栄養学」「生化学」など理科系の科目							
学修上の助言				受講生とのルール			
<p>普段の生活から科学的現象に興味をもってもち、物事を科学的に考えてもらいたい。また、疑問に思ったことは放置せず直ちに質問してほしい。</p>				<p>私語や居眠りなどの授業妨害となるような行動があった場合、退出を命じる場合がある。そのときは欠席の扱いとする。また、最近では授業中の飲食やスマートフォンの操作、大幅な遅刻など考えられない行動が目立つ。厳しく指導し規律性を身に付けてもらう。</p>			

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント	
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	90	①	✓			<ul style="list-style-type: none"> 原子の構造および原子同士の結合の仕組みが理解できる。 化合物の構造、名称、性質が理解できる。 比率の計算、中和滴定の計算が解ける。 	
				②	✓				
				③	✓				
	平常評価	小テスト		0	①				
					②				
					③				
		レポート		0	①				
					②				
					③				
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		0	①						
			②						
			③						
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			（主体性）講義中に教員からの問いかけに積極的に発言できたか。基礎問題をクラスメイトに積極的に教授できたか。 （実行力）基礎問題、本試験など、目標を設定し最後まで学修できたか。 （課題発見力）理解できない箇所を分析し課題を見極めることができたか。 （創造力）講義で学んだ現象を日常生活のこととして捉えたか。 （発信力）自分の意見や考えをわかりやすく説明できたか。 （傾聴力）講義内容をしっかり聴き、疑問に思ったことは意見することができたか。 （規律性）遅刻、無断欠席など学習意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。欠席した場合は欠席届を提出し、フォローレポート課題を行う。		
			②	✓					
			③	✓					
総合評価割合			100						

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
S (秀) は、化合物の化学構造や性質を完璧に理解でき、比率の計算や中和滴定の計算問題を容易に解くことができ、他人にわかりやすく教授することができる。A (優) 化合物の化学構造や性質をほぼ完璧に理解でき、比率の計算や中和滴定の計算問題が正確に解くことができる。	B (良) は、栄養素の化学構造や性質をおおよそ理解でき、比率の計算や中和滴定の計算問題も時間はかかるが、解くことができる。C (可) は、栄養素の化学構造や性質をおおよそ理解でき、比率の計算と中和滴定の計算は時間をかけ、どちらかは解くことができる。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	物質の成り立ち (原子の種類を学ぶ)	講義 質疑応答する形式で フィードバック	基本的な原子名、元素 記号を答えることが できる。	(復習) 原子の種類に ついて、他人に説明で きるようにまとめてお くこと。 (予習) 次週の電子配 置について教科書を読 みまとめておくこと。	180	主体性 実行力 課題発 見力 創造力 傾聴力 規律性
2	物質の成り立ち (電子配置について学 ぶ)	講義 質疑応答する形式で フィードバック	各原子がどのような状 態になると安定するの かについて、説明する ことができる。	(復習) 電子配置につ いて、他人に説明でき るようにまとめておく こと。 (予習) 次週の結合の 種類について教科書 を読みまとめておくこ と。	180	主体性 実行力 課題発 見力 創造力 傾聴力 規律性
3	物質の成り立ち (結合の種類について 学ぶ)	講義 質疑応答する形式で フィードバック	炭素(C)の結合手が4 つであること理由を 答えることができる。	(復習) 結合の種類に ついて、他人に説明で きるようにまとめてお くこと。 (予習) 次週の分子の 極性について教科書 を読みまとめておくこ と。	180	主体性 実行力 課題発 見力 創造力 傾聴力 規律性
4	物質の成り立ち (分子の極性について 学ぶ)	講義・演習 ・これまでの範囲の基 礎問題を解く ・学生同士の確認 ・学生による解説 ・質疑応答する形式で フィードバックする	水に溶ける物質の性質 を簡単に説明できる。	(復習) 分子の極性に ついて、他人に説明で きるようにまとめてお くこと。 (予習) 次週の炭化水 素、アルコールにつ いて教科書を読みまと めておくこと。	180	主体性 実行力 課題発 見力 創造力 傾聴力 規律性
5	身近な有機化合物 (炭化水素、アルコー ルの名称と性質につ いて学ぶ)	講義 質疑応答する形式で フィードバック	炭素数1～10までの炭 化水素名を答えるこ とができる。	(復習) 有機酸、エス テルについて、他人に 説明できるようにまと めておくこと。 (予習) 次週の異性体 について教科書を読み まとめておくこと。	180	主体性 実行力 課題発 見力 創造力 傾聴力 規律性
6	身近な有機化合物 (有機酸、エステル の名称と性質につ いて学ぶ)	講義 質疑応答する形式で フィードバック	簡単な有機酸の名称を 答えることができる。	(復習) 有機酸、エス テルについて、他人に 説明できるようにまと めておくこと。 (予習) 次週の異性体 について教科書を読み まとめておくこと。	180	主体性 実行力 課題発 見力 創造力 傾聴力 状況把 握力 規律性
7	身近な有機化合物 (異性体とは何かを学 ぶ)	講義・演習 ・これまでの範囲の基 礎問題を解く ・学生同士の確認 ・学生による解説 ・質疑応答する形式で フィードバックする	自然界に存在する、単 糖類、アミノ酸がそれ ぞれD体、L体どちらで あるか答えることが できる。	(復習) 異性体につ いて、他人に説明でき るようにまとめておく こと。 (予習) 次週の食品に 含まれる物質の構造に ついて教科書を読みま とめておくこと。	180	主体性 実行力 課題発 見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
8	食品に含まれる物質 (炭水化物、脂質、タ ンパク質)の構造につ いて学ぶ	講義・発表 ・栄養学の範囲を確認 して栄養素の構造や特 徴について発表する ・質疑応答する形式で フィードバックする	グルコースの構造を書 くことができる。	(復習) 三大栄養素の 構造について、他人に 説明できるようにまと めておくこと。 (予習) 次週の溶液の 濃度について教科書 を読みまとめておくこ と。	180	主体性 実行力 課題発 見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	溶液の濃度 (計算の解説)	講義 質疑応答する形式で フィードバック	基本的な比率の計算問題を解くことができる。	(復習) 溶液の濃度の計算を、他人に説明できるようにまとめておくこと。 (予習) 次週の溶液の濃度の計算をしておくこと。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
10	溶液の濃度 (実際に計算問題を解く)	講義・演習 ・計算問題を解く ・学生同士の確認 ・学生による解説 ・質疑応答する形式で フィードバックする	基本的な比率の計算問題を解くことができる。	(復習) 溶液の濃度の計算を、他人に説明できるようにまとめておくこと。 (予習) 次週の物質質量について教科書を読みまとめておくこと。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
11	化学的な物質質量 (モルについて学ぶ)	講義・演習 ・計算問題を解く ・学生同士の確認 ・学生による解説 ・質疑応答する形式で フィードバックする	基本的なモル、モル濃度の計算問題を解くことができる。	(復習) 物質質量について、他人に説明できるようにまとめておくこと。 (予習) 次週の物質質量の計算について教科書を読みまとめておくこと。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
12	化学的な物質質量 (モルについて計算問題を解く)	講義・演習 ・計算問題を解く ・学生同士の確認 ・学生による解説 ・質疑応答する形式で フィードバック	基本的なモル、モル濃度の計算問題を解くことができる。	(復習) 物質質量の計算溶液の濃度の計算を、他人に説明できるようにまとめておくこと。 (予習) 次週の酸と塩基について教科書を読みまとめておくこと。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
13	酸と塩基 (酸・塩基の定義、pHについて学ぶ)	講義	酸性、中性、塩基性でpHがどのように変化するか答えることができる。	(復習) 酸と塩基について溶液の濃度の計算を、他人に説明できるようにまとめておくこと。 (予習) 次週の中和滴定について教科書を読みまとめておくこと。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
14	酸と塩基 (酸と塩基の反応である中和反応および中和滴定について学ぶ)	講義 質疑応答する形式で フィードバック	中和滴定の計算を解くことができる。	(復習) 中和滴定について復習する。 (予習) 次週の中和滴定の計算しておくこと。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
15	酸と塩基 (中和滴定の計算問題を解く)	講義・演習 ・中和滴定の計算問題を解く ・学生同士の確認 ・学生による解説 ・質疑応答する形式で フィードバック	中和滴定の計算を解くことができる。	(復習) 到達度確認のために中和滴定の計算ができるように復習する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力